

第10次交通安全基本計画(中間案)に対する 自工会の提言

平成27年11月6日

一般社団法人日本自動車工業会

提言書の概要

I. これまでの振り返りと認識

II. 提言作成にあたっての考え方

III. 数値目標と対策の重点化に対する提言 〈2項目〉

1. 施策効果を踏まえた数値目標の設定
2. 高齢化対策への重点化

IV. ひと(社会)に対する提言 〈4項目〉

1. 年代・ライフステージに応じた交通安全教育の推進
2. 地域や住民の取組み促進
3. 高齢運転者への支援体制づくり
4. 今日的課題を踏まえた啓発・広報

V. クルマに対する提言 〈3項目〉

1. 事故ミクロ調査と医工連携統合事故データベースの拡充
2. 安全技術の国際標準化、基準調和の推進
3. ASV技術等、安全装備の普及拡大

VI. ITSに対する提言 〈2項目〉

1. 安全運転支援システムの実用化、普及計画の着実な実行
2. 自動車走行情報の活用推進

VII. 道路環境に対する提言 〈5項目〉

1. 幹線道路の利便性向上による生活道路への車両流入抑制
2. ゾーン対策の推進
3. 安全・安心な次世代の交通環境整備
4. 自転車事故削減のための道路安全対策
5. 二輪車や小型モビリティの安全な走行空間の確保

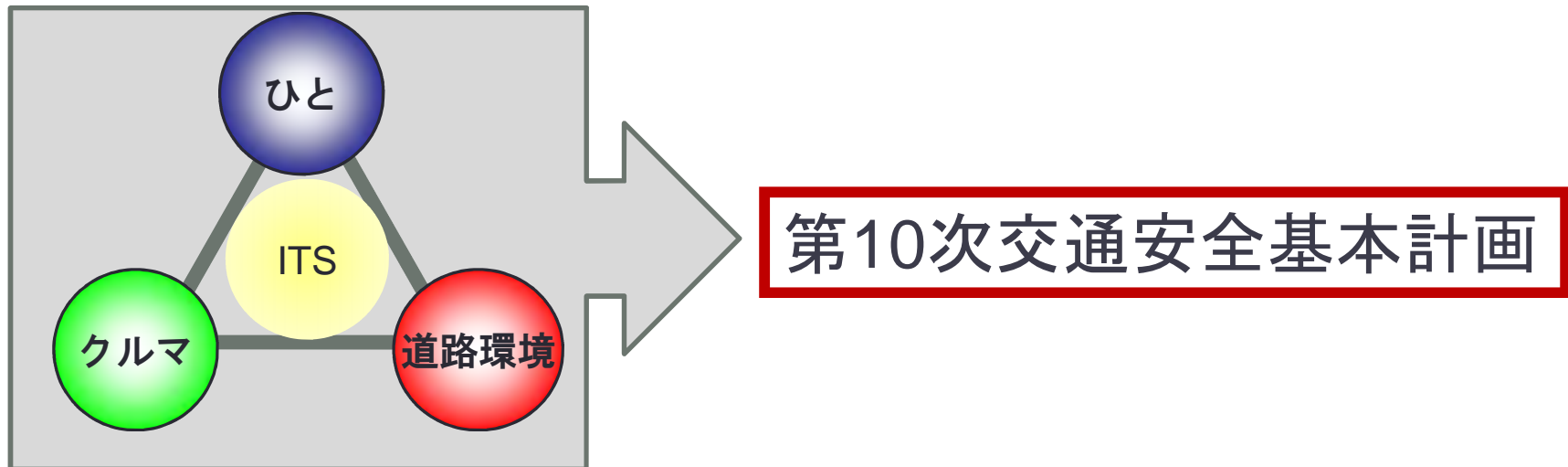
自工会の基本的考え方

● 活力ある社会と安全の両立

- ・持続可能な活力ある社会の構築と矛盾しない、前向きな交通安全施策実施
- ・クルマの有用性を損なうことなく、かつ国民の理解を十分に踏まえた施策実行

● 事故予防施策の充実

- ・ひと、クルマ、道路環境に対し、事故そのものを減らす事故予防施策を一層充実



● 道路交通の安全に対する国民意識の向上

- ・道路環境の整備やクルマの性能・機能向上の効果は、利用者一人ひとりの安全意識と正しい利用があって、はじめてその有効性を発揮

ひと(社会)に対する提言

- 提言1. 年代やライフステージに応じた体系的な交通安全教育の推進
- 提言2. 地域の課題に応じた対策の重点化と継続的な住民参加を促す仕組みの構築
- 提言3. 高齢運転者の自由で安全な移動を確保するため、高齢者個々の状況に応じた支援体制づくり
- 提言4. Distracted Driving(ながら運転)の危険性、中高年ライダーの増加など、今日的課題を踏まえた啓発活動



△いきいき運転講座



△物忘れ相談プログラム



△米NHTSAの“ながら運転”啓発サイト

クルマに対する提言

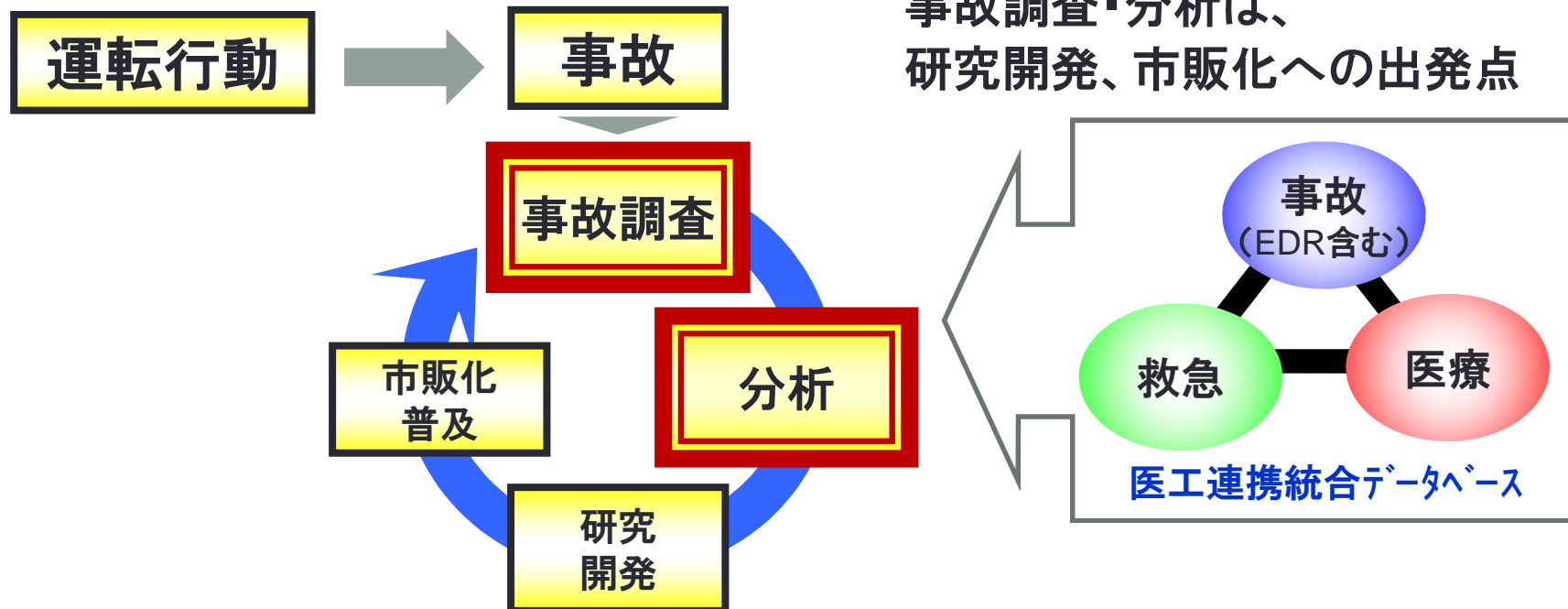
より安全なクルマの研究・開発、普及のために

- 提言1. 安全技術開発の基となる事故ミクロ調査と医工連携
統合事故データベースの拡充
- 提言2. 社会ニーズに合致した安全技術の開発・普及促進の
ため国際標準化、基準調和の推進
- 提言3. ASV技術等安全装備の普及拡大のための制度拡充
ASV: Advanced Safety Vehicle(先進安全自動車)

クルマに対する提言

提言1. 安全技術開発の基となる事故マイクロ調査と医工連携統合事故データベースの拡充

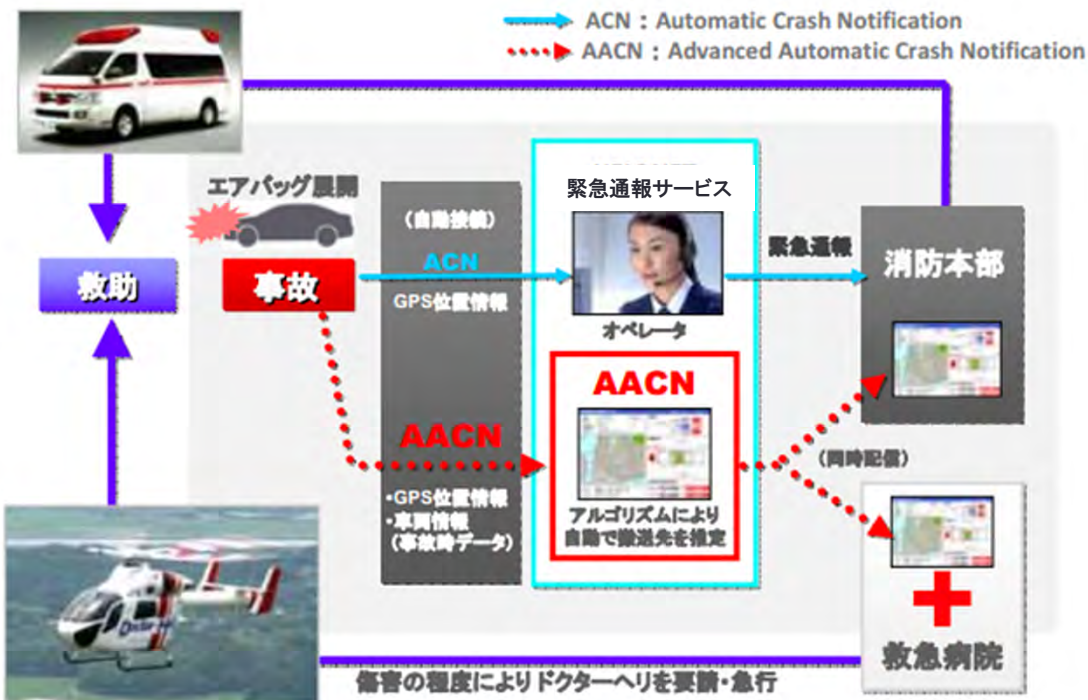
- 1) 高齢者(危険)運転特性の把握
- 2) 歩行者・自転車事故のシーンの分析・集約
- 3) 医工連携統合事故データベースの構築強化



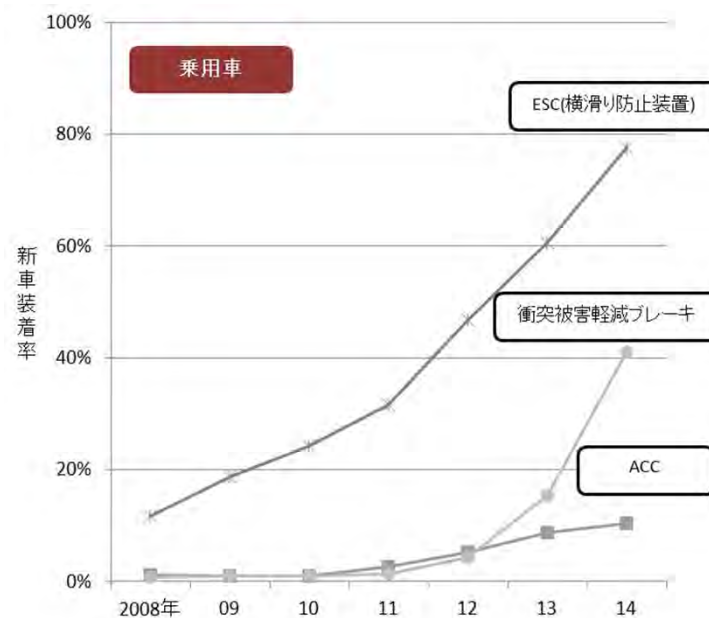
クルマに対する提言

提言3. ASV技術等安全装備の普及拡大を図るための制度拡充

- 1) 次世代運行管理機器(活用の枠組み整備の推進)
- 2) 自動車事故緊急通報システムのインフラ対応と普及促進
- 3) ASV安全装備の消費者への情報提供とインセンティブ



△交通事故自動通報システム (トヨタ自動車資料)

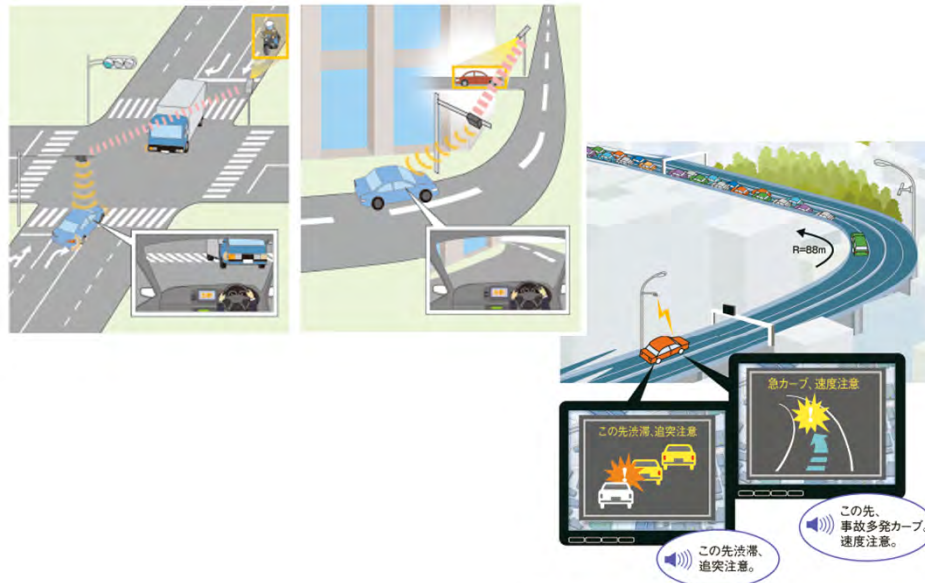


△乗用車 ASV機能の新車装着率 (国交省資料より)

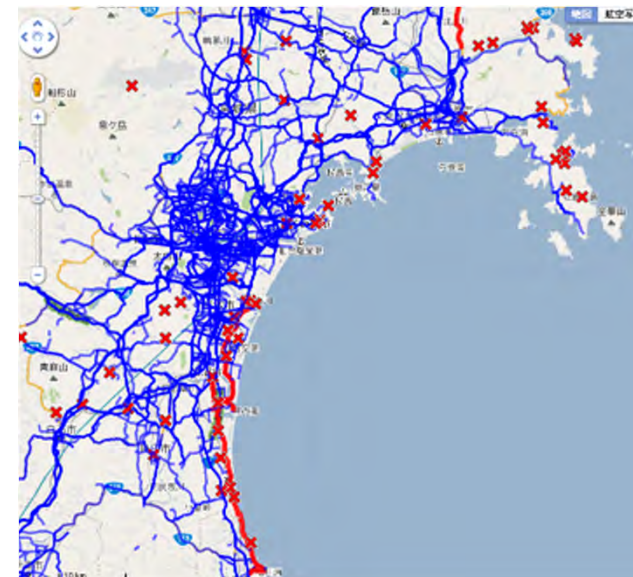
ITSに対する提言

「官民 ITS 構想・ロードマップ 2015」に掲げられた施策の「第10次交通安全基本計画」への記載と着実な実行

- 提言1. 安全運転支援システムの実用化、普及計画の着実な実行
- 提言2. 交通安全対策への自動車走行情報の活用



△安全運転支援システムDSSS、ETC2.0(UTMS協会、国交省資料)



△通行実績・通行止情報(ITS Japan資料)